



みなさん眼底検査を知っていますか。
眼底検査は眼科の病院や健康診断を受けたときにおこなうことがあります
が、目の病気がわかるだけでなく体の状態もわかる検査です。
今回眼底検査について説明します。

眼底検査とは

眼底検査とは、目の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。

眼底とは眼球の内面を覆う網膜のことで、瞳孔を通して観察し写真撮影をします。私たちは網膜の働きでものを見るので、もし出血や変性などがあった場合失明に至る恐れがあります。

眼底検査は健康診断などで検査をおこなうことで、失明に至る前に早期に発見できます。さらに、この検査は体の中で唯一、直接血管を観察出来るため動脈硬化、糖尿病、高血圧など目の病気だけではなく、脳や血管などの全身の病気について多くの情報を得ることができます。

当院の検査方法は、周囲を暗くして瞳孔を散大させて、右上の図のように眼底カメラに顔を固定し検査をします。痛みはなく、短時間で検査出来ます。眼科のある病院などでは、点眼剤を使い瞳孔を散大させて眼底を観察する場合があります。

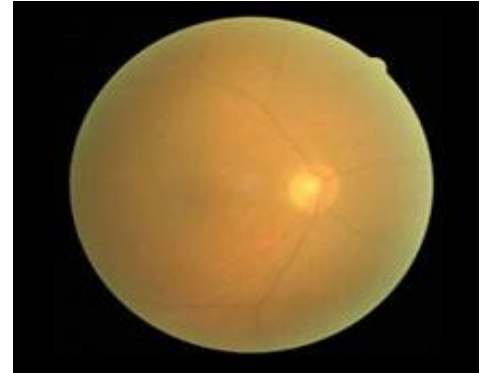
正常な眼底検査の写真は右下のように写ります。次に発見できる病気や異常がある写真について説明します。



わかる病気は何？

・白内障

白内障とは、目の中にある水晶体という部分が年齢とともに白く濁ってしまいう病気です。水晶体はカメラでいうレンズの役割を果たしていて、透明で光を通してピントを合わせたり紫外線などの有害な光から網膜を守るなどの役割があります。白内障になると、水晶体が白く濁り視界がぼやけてきます。

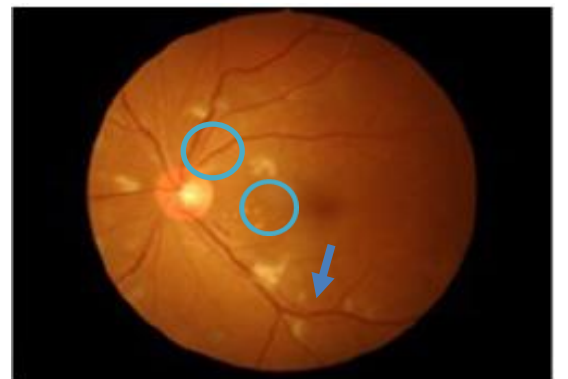


右の眼底の写真も白く霞んでいてはっきり写らなくなります。

・高血圧症

高血圧症とは血圧が正常よりも高くなっている病気のことをいいます。そしてこの状態が続くと動脈硬化が進み、狭心症や心筋梗塞、脳卒中などの血管の病気になることがあります。

右の眼底の写真は、高血圧が続き血管が細くなった状態です(矢印)。また動脈が固くなると、血管の壁から血液や血液成分がしみだしている状態です。さらに進むと、視神経の浮腫や網膜の血管が閉塞などを併発し、視力低下が起こります。



早期発見に眼底検査は大切です

目の病気は初期の場合、自覚症状がないまま病気が進んでいることは少なくありません。また目だけでなく体の状態も知ることが出来ます。定期的に眼底検査をして、病気の早期発見に役立ててみてはいかがでしょうか。



検査について詳しく知りたい方は、医師にご相談ください。